



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」

Ver.2-023 号

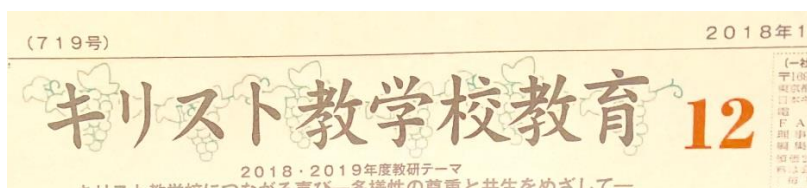
立教大学と同志社大学



昨年クリスマスイブに経済学部のと田喜彦先生から次のメールが届きました。

良心学研究センターの皆様、クリスマスおめでとうございます。

春学期に公開講演会に御登壇くださった立教学院副学院長の西原廉太先生が書かれた文書が『キリスト教学校教育』2018年12月号に掲載されていたのでスキャンし、ここに添付いたします。良い新年をお迎えください。





記事は、西原廉太先生（立教学院副院長、教育同盟理事長）の「キリスト教学校の使命」。

立教大学も同志社大学も「キリスト教学校」である。その「使命」とあるので、転載できるように動きました。

西原廉太先生は、岩倉の同志社高校の卒業生で、立教では諸学校を束ねる立教学院の副院長です。いわば、立教グループのナンバーツーの方です。以下が記事の内容です。

.....

### 「キリスト教学校の使命」

西原廉太先生（立教学院副院長、教育同盟理事長）



私たち、キリスト教学校につらなる者たちの使命とは、当然ながら、生徒、学生たちに、それぞれの「建学の精神」と「キリスト教」の「髄」を伝えることにある。しかしながら教

壇に立ちながら、時に無力さに苛まれることがあるのも事実である。

私は現在、立教学院に奉職しているが、高校は、実は同志社高校であった。先日、同志社高校時代の同級生で、世界最大のアパレルメーカーである GAP のアメリカ本社副社長を担う大原徹也さんに、立教大学で講演をしてもらった。講演の中で、彼はこのような話をしてくれた。

\* \* \*

《同志社中高、同志社大学にいる間、いつも聖書の話と新島襄の話を聴かされ続けてきた。正直、もう満腹で、新島襄の偉かった話にはウンザリしていた。ところが、22年前、渡米直後、仕事でマサチューセッツに行った時のことだ。取引先の友人が、近くにある大学に行ってみるかと言われて連れて行ってくれた。

それは「アモースト大学」という大学だった。そこには素敵な白いチャペルがあり、中に入ってみることにした。友人が、「おい、ここに日本人の肖像画があるぞーというので、見に行った。私は驚きのあまり言葉を失った。それは、あの新島襄の肖像画であったのだ。ここは新島襄が1870年に卒業した大学だった。同志社では「アーモスト大学」と呼んでいたのだ、すぐには結びつかなかったのだ。その肖像画の下には銘板があり、「友愛の、光のやどり、海こえて」と刻まれていた。私はそれを読みながら、なぜか涙が溢れてとまらなかった。

自分も、単身、アメリカで生活し働く中で、辛くて悲しくて、しんどくて仕方がない時があった。

今から、150年も前に、新島襄はこんな田舎の外国の大学に一人きて、けれどもがんばって、生きていたのか。その彼を支えていたのが聖書の言葉だったのか。私が中高生の頃には分からなかったが、それが今こうして、このように出会って、その意味が、今ようやく分かったように思うのだ。》

\* \* \*

私たち、キリスト教学校の使命とは、まさにこういうことなのではないか。私たち、キリスト教学校をめぐる内外の状況は大変、厳しいものがある。種を撒けども、いつまで経っても芽吹かないことに焦り、本当にこれで良いのかと途方に暮れることもある。しかし、小さな「からし種」を、いつの日か、空の鳥がその枝に宿るほどのような大きな木に育ててくださる主に信頼しながら、精一杯にいていねいな教育を担っていきたいのである。

出典：『キリスト教学校教育』12 (2018.12.15 発行)

注：筆者の西原廉太先生から一部修正と転載のご許可を2019.2.2に戴いています。多田



<ジョンソンチャペル内部> 撮影：2015.9.15 多田直彦

大原徹也氏の略歴は次のとおりです。

同志社大学経済学部卒、帝人株式会社に入社。繊維事業部でスポーツ用テキスタイルの開発と販売を担当。1996年に渡米、ハイテクコンポジット製造大手のディメンジョンポリアント社を経て、2003年アウトドアウェア製造大手のパタゴニア社でイノベーションディレクターに就任。米国特許5件、国際特許2件を取得している。

2012年にMITスポーツテクノロジー&エデュケーションのボードアドバイザーに就任するなど米国学術界ともパイプを持つ。2017年よりGAP Inc. 米国本社副社長。Gap Inc.への転職を決意したのは「Gap Inc.というおよそ1兆7,000億円規模の大企業が動けば、一部上場企業のあり方が根本から変わるんじゃないかと思いました。それで転職したので」。とのこと。

冒頭にありましたように西原廉太先生は良心学研究センター主催のシンポジウムでお話いただいております、その録画がYouTubeで公表されています。

公開シンポジウム：「キリスト教主義大学における建学の精神——立教大学の取り組み」

- ・日時：2018年05月17日（木）16:40-18:40
- ・場所：同志社大学 今出川キャンパス 同志社礼拝堂
- ・講師：西原廉太（立教学院副院長、立教大学 文学部 教授）
- ・映像：<https://www.youtube.com/watch?v=6-jDwUWbH-k>

このお話で、立教大学のことは勿論、同志社大学との違いが良く理解できます。また、話の中で同志社大学との関係について「体育会関係では緊密である」と伺ったので、早速、同志社スポーツユニオン事務局の山崎玲子さんに情報提供をお願いした。

「大学の体育会として公認で定期戦を行っているクラブが20～30くらいあり、毎年6月に開会式、2月に閉会式を隔年で幹事校となって開催している。今年度は立教大学が当番校で準備が進められているとのことでした。

開会式や閉会式が行われるほど、交流は盛んなようです。

なお、文系では、1960年頃、クラマ画会とこぶし画会は立教大学の絵画クラブと交流展を実施していた。途中途絶えて、現在、東京では「同立OB・OG展」、即ち、立教の絵画クラブ・サバヌ、同志社大学のクラマ画会、同志社女子大のこぶし画会のOB・OGが作品を持ち寄っての展覧会です。

本年度は、6月12日～16日、「銀座・アートスペース」(銀座6丁目のギャラリーセンタービル4階) 電話；03-3573-1271で開催の予定です。■